

新社屋完成記念 SDGs、カーボンニュートラルetc. パーフェクトZEB新社屋で 地元企業から世界的要請に応える



「新社屋完成について伺います。」

全社員待望の新社屋の完成に当たり、社長として大変感慨深い思いです。

これまで本社屋のスペースの問題から、社員の半数余りを約2キロ離れた借地で就業させていたことが心苦しかったのですが、解消されることになりました。また、2011年3月の東日本大震災および22年3月の福島県沖地震により、本社屋は大きく損傷を受け、雨漏りや壁の亀裂に悩まされていましたが、これも解消されました。

これまで不慣れた環境の中で業務に当たり、また新社屋建設に協力してくれた全社員に感謝するとともに、前例のない建築様式の建物に携わっていただいた多くの皆さまに感謝いたします。

この度の新社屋建設に当たっては各種補助金を活用させていただきました。これに応えるためには、まずは社業を進展させて納税という形で社会貢献すること、また弊社で得られる地中熱システムのデータや木造社屋での就業で得られるメリットなどを公表することで、東北地方におけるSDGsやカーボンニュートラル促進の一助となれば幸いです。

「木造建築へのこだわりは。」

新社屋を木造建築にしようと思ったのは、20年の暮れにZEBについて「みやぎZEB研究会」を主宰する東北大学土屋範芳教授にご指導いただきため東北大学の「エコラボ(ササキ設計・サンホーム担当)」を訪ねた時です。エコラボの玄関を入った瞬間に「木の香り」に包まれ、心が癒



社員参加の立木見学

され、私が通っていた小学校・中学校の空間を思い出しました。これは、社員にとっても心身ともにプラス効果になると確信しました。

その後、木造建築についていろいろと情報を集め学習するにしたいが、カーボンニュートラルを実現するためには大変重要な取り組みであることも認識しました。

使用する木材は、石巻森林組合さま、山さまのご配慮で石巻産を紹介いただき、社員による立木見学、伐採見学、製材見学、伐採跡地への植樹を実施して、木材を育ててくれた山に感謝するとともに、循環型森林利用に少しでも貢献しようと考えました。

「創立100周年に向けた思いをお聞かせください。」

弊社は今年創立から71年を迎えました。わが国が完全なカーボンニュートラルの達成を目指す2050年には創立100周年に近づきます。そのころには社会環境が大きく変わっていて今弊社が取り組んでいるZEBなどは普遍化していると思われるが、弊社の社員たちには「当社の取り組みが地域の先駆けであった」と胸を張ってほしいと思います。



木の香りに包まれるエントランス



全面木材の癒しオフィス



宮城県産木材を使用した耐力壁

「新技術「メンテナンス事業」の取り組みについて伺います。」

これからの時代の社会インフラは、何でも更新するより、質の良いものを作り、メンテナンスをしながら長く使う考えに完全に移行すると考えています。特に、われわれが創業以来担ってきた水戸や温泉開発の水事業については、設備費が高額であることからその指向性が高まると強くなっています。これらの状況を踏まえ投入したのがマイクロ・ナノバブルを利用して地下水が通る管や水を汲むポンプを洗浄する技術「スマート洗浄」です。

実績が豊富で信頼のおける井戸掘削技術と新しいメンテナンス技術を提供できる弊社の水事業をより広くご活用いただければ幸いです。

なお、新社屋における地中熱システムや災害応急用井戸も自らメンテナンスを行いながら永く活用しようと考えています。

ありがとうございました。

祝 竣工 宮城県初のZEB木造新社屋

東北ボーリング新社屋

本日より 業務開始



●東北ボーリング新社屋新築工事

■施工地：仙台市若林区六丁目字南12先8街区8画地 ■設計・監理：ササキ設計 ■施工：サンホーム ■工期：2022年6月17日～23年2月28日

■工事内容：敷地=2,333.01㎡ 構造・規模=W造2階建て、延べ677㎡(CLT採用建物) ■補助金：令和3年度みやぎCLT普及推進事業、令和4年度みんなで広げる「木育」活動推進事業

●地中熱を有効利用した輻射式冷暖房システム採用

このほど完成した東北ボーリング新社屋は「将来に向けたカーボンニュートラルおよびSDGsに果敢に挑むシンボル」をコンセプトとし、CLT材を活用した。CLT材は床、屋根に使用し、柱・梁材には石巻産の杉材を使用。木造社屋とすることで、植樹による森林サイクルの維持、里山の景観保全、土砂災害防止など、地域企業として持続可能性社会を考えるきっかけとする。また、宮城平野の地下水を有効活用した輻射式冷暖房システムを採用。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指した。

さらに新社屋が立地する新工業団地や近隣住民の防災拠点とも位置づけ、耐震性の確保や災害応急用井戸も設置した。

上部構造は地上2階建ての在来軸組工法で、構造上の特徴は耐震要素として鉛直構面は構造用合板およびスギ製材を用いた面格子耐力壁(貫壁)とした。ビスやクサビを併用することで、壁倍率約7倍相当の耐力を実現し、木材の靱性を活かした構造となっている。

「ZEB」による木造新社屋(事業所)は宮城県初となる。ZEBを達成するため、断熱性能を含む外皮性能を重視し、床板、天井板にCLTを使用。県内産の高性能断熱材の採用により当初200mmで予定していたものが160mmまで薄くできたことにより経費削減と作業時間の短縮を実現した。

室内も木材を多用。木の吸放湿性能を活かした癒しの空間を演出した。

安全な水と地盤を東北に・・・



東北ボーリング 後援



東北ボーリング株式会社

URL: <http://www.tbor.co.jp>

■設計・監理

一級建築士事務所

(有)ササキ設計

Sasaki Architects & Associates

代表取締役 佐々木 文彦

【仙台事務所】〒980-0871 仙台市青葉区八幡1丁目10-14-101

TEL.022(268)6578 FAX.022(268)7164

e-mail: sasaki@sasakisekkei.co.jp <http://www.sasakisekkei.co.jp>

【北上事務所】〒986-0201 宮城県石巻市北上町十三浜字小指33-1

TEL.0225(61)2215 FAX.0225(90)3545

■建築工事

未来の豊かな住文化を考える

株式会社 サンホーム

代表取締役 齋藤 照雄

本社 / 〒982-0003 仙台市太白区郡山字穴田東15-1

TEL.022(249)7515 FAX.022(249)7585



■木工事

宮城県産材及び「優良みやぎ材」

宮城の伊達杉

株式会社 山 大

代表取締役社長 高橋 暢介

<http://www.yamadai.com>

本社 TEL:0225-93-1111(代)

■機械・電気設備工事

ERGOTECH

エルゴテック株式会社

北日本支店

取締役上席執行役員

北日本支店長

仙台市東区八乙女中央5-10-8/乙女ユナイテビル

TEL.022(773)7891 FAX.022(773)7893

熊谷 裕明

■地中熱設備工事

地中熱の

ARIGA

http://ariga-group.com

代表取締役 清水 俊明

株式会社 アリガプランニング

本店 札幌市中央区南10条西12丁目2番23号

TEL.011(533)2500 FAX.011(533)2502

本社 北海道空知郡上富良野町中町3丁目2番1号

TEL.0167(45)3129 FAX.0167(45)3212